

食を通じて人がつながる

～地域と大学が協働で築く、高齢者のいきいき活動～

人来田学区連合町内会 会長 小本 一次さん



大学との協働で広がる学びと支え合い

人来田学区は、5つの町内会が参加する連合町内会です。それぞれの活動を進めながら、地域の高齢化やコミュニケーション不足など地域の課題解決に向け、さまざまな取組を進め、少しずつ効果を挙げています。

そうした活動の重要なパートナーが、地域にキャンパスがある宮城大学食産業学群の作田教授と学生のみなさんです。卒業研究で「買い物弱者」について調査する中で、町内会の状況を知りたいとお話をいただき、地域でも以前あったスーパーマーケットがなくなったり、高齢のため免許返納される方が増えたりなど、買い物で困っている方も多かったためご協力することにしました。そんなやりとりをきっかけに、「課題解決のために一緒にできることがあるのでは」という流れが自然に生まれました。

今までにないアイデアで企画の幅が広がった

食を通じた交流の場「お茶っこのみを推進する会（お茶っこ会）」を実施したり、学生の得意分野を生かして「スマホ教室」も開催したりしました。最初は不安そうだった高齢者のみなさんもスマートフォンの使い方を覚えるだけではなく、学生さんとのおしゃべりを楽しみにするようになりました。

学生さんは我々だけでは出ないアイデアや魅力ある企画を考えてくれるので地域の活気が出て、みなさん楽しみにしています。作田教授からは「学生が幅広い世代と話せる貴重な機会。色々な話を聞けるのを喜んでいます。『人』が魅力なんです」と言っていたので、大変感謝しております。

食やおしゃべりで生まれた地域のつながり

高齢化が進む人来田学区では、一人暮らしの高齢者も多く、「お茶っこ会」はみなさんの暮らしぶりを確認する意味でも大事な役割を果たしているのですが、全員が参加できるわけではありません。そこで無理なく、ゆるやかに「見守り」ができる取組として、連合町内会の防災訓練の際に、みんなで歩いて危険な場所をチェックする合間に、地域のこどもたちが一人暮らしのお宅を訪問し、おしゃべりできる機会やバーベキューをみんなで行うなど交流の機会も設けています。

また、公園でコーヒーを飲みながらおしゃべりする「公園カフェ」も気軽に参加できると人気で、普段、カフェに行けない子育て中のお母さんたちにも好評で、取組は多世代に広がってきています。これらも、学生さんと連合町内会とで相談しながら始めた取組です。

新たなリクエストが続く力に

人来田小学校のブラスバンド部は部活動の地域移管を受け、親の会がサポートしており、連合町内会では冷暖房完備の施設を練習場所として開放しています。宮城大学は吹奏楽部などのサークルがないことから、思うように演奏活動ができない学生もいるということで、お声がけし一緒に練習できるようにしました。小学生は大学生と練習することで刺激になり、大学生は楽器を借りて練習する場を得ました。交流が広がるにつれ、若い世代の関心も集まり、「地域の趣味サークルに参加したい」「郷土料理を習いたい」など新しいリクエストも出ています。地域の合言葉は「まずはやってみよう」。ピンチはチャンス。地域と大学が協力し、知恵を出し合えば良いアイデアが生まれる、そんな流れが私たちの強みだと思います。

